

### 第三章 縮緬返し摘躑躅（つつじ）

つつじは、返しつまみで作る。

布片の切り方

花は、赤、桃、白の三色から選び、1寸5分縮緬5枚

葉は、緑絹1寸5枚

つまみ方

花は角摘み。折下を切りそろえる。葉は角摘み腰は中ぐらいにカット。

葺き方

つまみの下部の糊をよくこそぎ取り、ガラス板の上に折下が開かないように注意しておいておく。葉も同様。よく乾いてから返して置く。中央に葉柄の針金をつけて置く。

仕上げ

花卉には下部の中央に“ゴ粉”を水で溶いて、実物の花卉のように斑点を描く。額を5枚作ってつつじの花にする。額は梅や桜に用いるものと同じ。

つぼみは、勝負のように作る。花とつぼみで3輪ずつ針金で組み、その周りに葉をつける。

シベは作るならカタン糸20番ぐらいに糊をつけて長さを決める。先に糊を少しつけて米ぬかを花粉のようにつける。花の真ん中に5, 6本束ねて差し込む。

### 第三章 縮緬返し摘躑躅（つつじ）の簪の作り方

この躑躅の花の作り方は、摘みの用い方を異にして、ほとんど造花の如き外形のものに仕上げる仕方でありまして、このような仕方の物を返し摘みと言うのであります。

---

#### 布片の切り方

花は赤、桃、白の三色の内にて好むものを選び一寸五分角に五枚縮緬を切っておくのです。葉は、緑の絹を一寸角に五枚切るのであります。

---

#### 摘み方

花は角摘みにいたして、折下を少し切りそろえておくのです。葉は角摘みとして腰の切り方は中くらいに切っておくのです。

---

#### 著け方

花は摘みをよく扱（こ）きて、下部の糊を取り、ガラス板の上に折下の開かぬように注意をしておくのです。葉は花と同じくガラス板の上に置くのであります。かくの如くして、摘みの下の糊が十分に乾いたときに、藤の花を作りたる時の如くして、更に返しておくのです。そして葉の方も同じ様なる方法に依りて中央に葉柄の針金をつけておくのです。

---

#### 仕上げ

花卉には下部の中央のところに「ゴ粉（ふん）」を水にて溶き、実物の花卉の如き斑点を書き表すのです。そしてこれを額に五枚作れば、躑躅の花となります。額は梅桜などに用いるものと同じで良いのです。

蕾は菖蒲の時の如くして拵えたる花と同じ額に作るのです。そして、花とつぼみにて3輪を一緒に寄せて針金に組みつけながら、その周りに程よき格好に葉をつけて前の様なる仕方で簪に仕上げるのであります。

シベは材料店にて売りあるものを用いますが、又別につくる時は、カタン糸の二十番ぐらいの物に糊を施し、長さを定めて先の方に糊を少しつけ、そこに米ぬかをつけて花粉とし、花の中央に五、六本束ねて差し込み置くのです。